

〈指導例 3 2 特別支援学校 生活単元学習〉

特別支援学校小学部（知的障害）

「消防署へ行こう」 3～4時間

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

学校近隣の消防署への見学を通して消防士の仕事に触れ、防災意識を高められるようにする。

◆ 具体的な指導

- 1 事前学習で、災害時に働く消防車の動画を見て、消防士の仕事に興味や関心をもたせる。災害への危機意識を高めさせる。
- 2 防火服を着たり、消火ホースを持ったりすることでその重さを実体験し、災害に立ち向かう消防士の仕事の大変さ、勇敢さを感じさせる。
- 3 消防署へ行ったときの写真を見て、消防士の仕事を振り返らせながら、避難訓練時に学習した避難の心得についても確認する。

○ 参考

消防署での見学の際には、消防署員の方が学習の様子を見ることで、児童の実態を知っていただく機会とする。



〈指導例 3 3 特別支援学校 生活単元学習〉

特別支援学校中学部（肢体不自由）
「地震のしくみ・危険・備え」 6時間

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

見る、聞くの学習だけではなく、地震の揺れや危険性を疑似体験することを通じて、地震を身近に感じ、日頃の防災に対する意識を高められるようにする。

◆ 具体的な指導

1 地震のしくみを知ろう

パワーポイント等で図示し、板や家の模型、人形等を使用して、プレートが引き込まれていく様子や地震の発生までの様子をイメージさせる。

2 液状化現象について知ろう

砂と水、模型を使用した簡単な実験を行い、何もない所から水が浮き出てくる様子を実験で確認する。その後、写真等で液状化現象による被害の様子を確認し、どんな危険につながるかを考えさせる。

3 地震の揺れを体験してみよう

震度の大きさと揺れ方の図を表示し、※キャスターカーにクッション性の高い椅子を付けたものに座って、揺れの強さを体験させる。

（※肢体不自由のある生徒への配慮）

4 地震が起きるとどんな危険があるか知ろう

軽くて倒れやすいものをキャスターカーに乗せ、その横にマットを敷いて寝転び就寝している状態を想定する。キャスターカーを揺らすと倒れてくることから、寝ているときの危険や身の守り方について理解させる。

5 地震が起きる場所を調べてみよう

大きな地図を準備し、地震の震度を、震度の大きさごとに色分けしたシールで貼らせる。震源地に近い場所の揺れが強くなっていることから、地震が起きた場所を予想させる。

6 まとめ

日頃の訓練（避難訓練・初期行動確認訓練）とのつながりを意識しながら、防災頭巾のかぶり方や避難の方法、※「おはしも」等を確認する。また、家庭での備えにも触れて、避難する場所や防災グッズの置いてある場所等を家庭で話す機会とする。

（※「おはしも」おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない）

〈指導例 3 4 特別支援学校 生活単元学習〉

特別支援学校中学部（知的障害） 「防災体験をしよう」 4 時間程度

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

防災学習センターを訪れて暴風、地震、火災等を疑似体験することで、災害に巻き込まれた際の対処法を知り、日頃の防災に対する意識を高められるようにする。

◆ 具体的な指導

1 防災についてのアニメを見せる

愛知県が防災教育のために制作した「防災ナマズンの地震は必ずやってくる」というアニメを見せ、地震や二次災害が起きた場合の怖さを感じさせる。

2 防災学習センターについて学ばせる

教師が防災学習センターに下見に行った際に撮影した暴風、地震、煙脱出体験コーナーの動画を見て、体験の様子や体験する際の注意点等を事前に学習させる。

3 暴風、地震、煙脱出体験をさせる

防災学習センターでは、実際に災害に巻き込まれたときには、どのように対処すればよいのかをセンターの職員から聞いて学習させる。

〈暴風体験コーナー、地震体験コーナー、煙脱出体験コーナーの体験〉

- ・暴風体験コーナーでは、台風の際に物等が飛んできて危ないので、すぐに屋内に避難することが大切であることを学ぶ。
- ・地震体験コーナーでは、大地震の時は立っているのも難しいほどの揺れがくることを学ぶ。
- ・煙脱出体験コーナーでは、煙を吸い込まないようにハンカチを鼻と口に当て、身をかがめて大人の指示に従って脱出することを学ぶ。

4 振り返りをする

防災学習センターに行った際に撮影した動画を見て、今後、自分たちが災害に遭った場合にどうすればよいのかを考えさせる。

〈指導例 3 5 特別支援学校 生活単元学習〉

特別支援学校高等部（肢体不自由教育課程）

「校内安全マップを作ろう」 4 時間程度

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

校内にある非常ボタンや火災報知器等の安全に関する設備、消火器や防災頭巾等の身を守るためのグッズの場所や使い方を知ること、日頃の防災意識を高められるようにする。

◆ 具体的な指導

- 1 校内にある安全設備やグッズの使い方について学ばせる。
 - ・ヘルメットや防災頭巾の使い方やどんな時に使うかを確認させる。
 - ・それらが無いときに代用できるものとして、マットやかばん、クッション等を例に挙げ実際に体験させる。
 - ・非常ボタンと火災報知機の違いやどんな時に押すのかを確認させる。（映像や実物等、できる限り実際に見たり触れたりできるものを使用する。）
- 2 校内を散策し、前時に学習した安全設備やグッズを見つけさせる。
 - ・使用方法を学習したグッズについて、校内を散策しながら探させる。
 - ・見つけたら、写真を撮ったりメモをとったりしながら、何がどこにあったかを記録させる。
- 3 校内の安全マップを作成させる。
 - ・校舎の地図に見つけた設備やグッズの印を付けながら、校内の安全マップを作成させる。
- 4 避難経路を確認し、避難の練習をさせる。
 - ・音楽室や体育館等、実際に授業で使用している教室へ行き、そこからどのように避難するとよいかを考えさせ、実際に避難させる。